

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
<b>解表剤 辛涼解表剤 2</b>		
ぎんぎょうとう 銀翹湯	滋陰透表	金銀花 15g・連翹 9g・竹葉 5g・生甘草 3g・麦門冬 12g・生地黄 12g 水煎し、分3で服用する。
温病条弁	主治は、陽明温病、下して後無汗脈浮のもの。 瀉下して積穢が除かれ腑氣が通じれば余邪は達表するが、氣陰が消耗して外透できないときは、無汗、脈浮がみられる。 銀翹湯は透表清熱の軽剤であり、金銀花・連翹で解毒すると共に表邪を軽宣し、竹葉で上焦の熱を清し、生甘草で益氣清火し、麦門冬・生地黄で滋陰清熱し源汗を潤して、表に達した邪を汗と共に除くのである。 無汗であっても、脈が浮で洪のときや脈が浮ではなく数の場合は、裏熱が主体であるから、本方（銀翹湯）を用いてはならない。	